

大田区議会議員（無所属）

荒木文庫 議會報告



電話一本

「走る何でも相談室」

号外 その 2 2

平成 17 (2005) 年 1 月 1 日発行

- ◆山王事務所（安楽堂）
山王3-1-13 Tel 03(3771)4719
 - ◆鶴の木事務所 Tel 03(3758)3864
鶴の木2-16-7 FAX 03(3771)7613
 - ◆http://www.youmay.net/araki/
 - ◆mail：現在変更手続中です。

討 議 資 料

「あなたの提言」講会に届けます・6 ～あなたも提言してみませんか～

平成 16 年 6 月 9 日 第二回定例会 代表質問

- 日本赤十字大森病院の役割、その後の状況は？
 - 本庁舎1階福祉コーナーの充実を考えて！
 - 18特別出張所と地元商店との関係～もう一段の配慮を～
 - 防災について～学校避難所の現状は？～

平成 16 年 10 月 13 日 決算特別委員会 総括質疑

- #### ●小売業、商店街に対する区の姿勢は?

平成 16 年 10 月 15 日 決算特別委員会 款別質疑

- ## ●防災の重要課題～危機管理室の設置の必要性～

ガンバレ新潟！！

現地報告 ~平成16年11月18、19日、新潟県北魚沼郡川口町~



この機会御言は西生振を教訓しての手本

◎第二回定例会（平成16年6月9日）・代表質問

日本赤十字大森病院の役割、その後の状況は？



自分の目で見て、
自分の言葉で喋る

荒木ひでき 平成14年6月12日、第2回定例会でも質問しましたが、年間延べ30万人が利用していると言われる大森日赤病院が公的病院として、また大規模災害が発生した際の区民の命を守るために機能を有する拠点として、今後大いに発展していくためには、大田区として一体何をすればよいのか。その後の経過を含めて、日本赤十字大田地区長でもある区長にお答えを願いたいと思います。この問題は、大田区民全体の最注目課題の一つであると考えます。

区長 以前に提出された資料、計算書を見ますと、完成した後も、毎年2億数千万円の赤字がずっと継続するという内容でした。これでは努力の跡が見えないということで、私どもから、こういう努力を積み重ねれば、敷地もある程度提供するという方向を前提として考えていますが、それでやった場合に、黒字に転換ができる、償還もきちんとできるという分析の結果を先方に渡しましたが、やりとりをしていた院長、理事長とともに今年の4月に交代されました。それで、その分析の結果を、新しい院長さん、事務局長さんに改めて渡しました。2度目です。十分研究させていただきますとのことでした。

私どもがコンサルのアドバイスを多少いただきながらやった結果では、5年目から黒字が出ます。そういう方向でぜひ考えてくださいということをお願いしておりますが、つい先日聞いたところによると、今の32年に建設した、あの部分は耐震診断をかけなくちゃいけないというので、耐震診断をやろうかというようなことをお話しになさっていたかというから、耐震診断の必要性はないよ、いつ、どういう方法で建て替えるかということが最大の眼目なんだから、その方向で検討してくださいと特に言ってくれと頼みました。残念ですが、当事者として真剣に考えていかなければこの問題は解決しない、このように思います。

本庁舎1階福祉コーナーの充実を考え！

荒木ひでき 本庁舎1階の福祉の店は、せっかくよい品物が並んでいるのに販売が月2回で各3時間。どうなっているのかという声を多く聞きます。いつも陳列ケースをのぞいている来庁者も多く見かけます。本当は毎日でも販売すべきだと考えますが、せめて週2回程度は販売できるようにならないでしょうか。

区長 このことに関しては運営協議会、障害者団体の方にお願いをしています。それで、時間の都合がつかないから売りに来れないというのが実態でございます。ですから、毎日でもやってくださいって結構ですというのが私どもの提案であり、そういった意味での場所の提供でもあるわけです。しかしながら、いろいろご事情がおありになるので、やられてないことだと思います。

荒木ひでき 福祉園でつくっているパンを販売すれば必ず売れると思いますが、食品の販売はできないのでしょうか。

区長 パンが売れるか売れないか、私にはちょっとわかりません。しかし、ああいうものは、つくり込んだ、売れなかつたということになると大変なことで、ここの販路は大体もう予定した販路に販売しているんです。1週間のうち、どこで幾つ、何曜日、そういう形で生産をして販売しています。ですから、不特定多数の方にあの状態で販売したら、果たしてうまくいくのかどうか。隣にもおいしいパン屋さんがあります。非常に難しいと私は思います。しかし、それに打ち勝たなければこの商売は成り立たない。成り立つためにはどうしたらいいのか、区役所が援助をするのか、それは今のところいたずらはございません。

18 特別出張所と地元商店との関係～もう一段の配慮を～

荒木ひでき 各出張所で行う行事に際しての料理、飲料などの仕入れ先を独自アンケート調査しました。その結果、区内業者ではあるが、各出張所の商店街とはまるで関係ない業者に一括で品物を頼んでいる出張所が多くなっているのに正直言って驚きました。特定の業者への偏りのないように、また、大田区の契約事務の手引きにも区内中小企業者を優先的にと書かれていることを十分に考慮していただきたいのです。商業者甘ったれるなどおしかりを受けそうですが、個人商店の置かれている現状を十分に考慮した上で、区長にお答えをいただきたいと思います。

区長 小さなお菓子とかお茶とか、そういうものは多分地元の商店で買い求めていると思います。ある集宴会をやる。50人、100人集まつてくる。そういうときに応えられる業者さんということになると、どうしても対応出来るところとなると、区内の限定された仕出し屋さんが選択される、こういう場合が多いのではないか。地元の商店さんだから活用するとかしないとかということではないと私は考えています。出張所長が恣意的に特定のところからとるということではないと思います。

防災について～学校避難所の現状は？～

荒木ひでき 学校避難所運営協議会の現状と修正点をお聞かせください。また、地域防災計画が平成15年度に修正されましたが、どの学校避難所の運営マニュアルを見ても、大田区が出たマニュアルをそのまま使っているようです。特に要支援者に対する対応の場合などは独自性を求められると考えますが、防災課としてはどのように指導をしているのでしょうか。

区長 学校避難所の運営協議会の現状でございますが、マニュアル完成45、着手35、未着手11、以上でございます。マニュアルは、まさにマニュアルではまずいんです。実態を反映した手引きになっていないとまずい。そういう意味合いで、避難所を開設し、運営をする主体になるであろう人たち、そういう人たちが参画しておつくりをいただくような方向で考えております。一応のひな型みたいなものは出しますけれども、できるだけマニュアルの中で地域の独自性を踏まえた、そういう対応を考えいただきたい、こういう方向でお願いしております。その点の理解をぜひ運営協議会自体が深めていただくということによって現実の問題としてより安全性が保たれる、私はそのように考えております。

◎決算特別委員会（平成16年10月13日）・総括質疑

小売業、商店街に対する区の姿勢は？

荒木ひでき 最近、小売業の話をすると、とにかく小売業は今の現時点ではどこでもかしこでも大型店がどんどん出店するし、それを理由に売れないと言っている方も、私は問題があると思う。常に申し上げているのは、行政がお客様を店の前に連れて来て、ここで買ひなさいということは絶

対ないと。自分で独自の品物を開発したり、工夫をして商売をしなかったら、これから絶対だめだからねという話をいつもしているのですけれども、暗い話ばかりの中に何か産業経済部で小売業に対して何か明るい話はないかなと、ちょっとでもいいです。

平野産業経済部長 私どもも区内の商店街に何とか頑張っていただきたい。商店街が明るくなるということは、商店街自体がにぎわい、また個々の店が儲かっていくという図式を考えなければいけないわけでございます。その中で大切なことは、やはり個々の店が自分のお店の売り物というものを、きっちりと把握した上でどこを伸ばすか、どこに特化していくかというようなことも含めて、取り組んでいただく。またそれを商店街という固まりの中で、町全体として取り組んでいくというような姿勢が必要なのだろうと思います。私どもの方ではそのコンサルなりを入れる仕事をやっていくわけでございますけれども、積極的に商店街に働きかけをして何かやりましょうよと。固定的にこれしかないといことではなくて、何が個々の商店街でできるか、何をやればいいのかというところもあわせて、コンサルの人と一緒にやって取り組んでいくことで今進めておるわけでございます。本当に明るくなるのはもうちょっと時間がかかるわけでございますけれども、兆しぐらいは何とか見えるような形にしていきたいと考えております。



大田フェスタで 恒例のうどんやさん 商人の血が騒ぎます。

平野産業経済部長 おっしゃるように、職場自体は私ども産業プラザの中にあるわけでございますけれども、仕事を考えるネタそのもの、物事を進めていくためのきっかけ、あるいはヒントになるものは町の中にあるのだろうと思います。特に商業者であれ、工業者であれ、現場で働いておられる人たち、経営をされている人たちの思いというものをくみ上げていきませんと、難しい部分があるだろうなと思います。そういう意味では、先ほど言いました商店街に対しての働きかけをしておりますという部分についても、私ども職員も一緒にについて行って、どういうことが可能なのかということも一緒に考える、あるいは一消費者として自分は消費者として考えるというようなこともその場で発言をするようにしておりますので、そういう意味では積極的にこれからも町に出て、商業者あるいは工業者の思いも含めて、聞かせていただいた上で一生懸命考えると同時に、一生懸命動いていきたいと思っております。

荒木ひでき 例えば区の職員たちが皆さん商業を応援してやろうという気持ちも持っている方たちも、私は非常に見ております。例えばイベントをやっている最中に、買物にたまたま通った理事者の方方がちょっと私が手伝いますよといって、マイクを持って呼び込みをしてくれたり、そんなことまでしてくれる人も中にはいるわけです。商業を何とかしてやろうという気持ちが根本にあると思うのです。ぜひ、職場、もちろん産業プラザの中にあるのだけれども、町の中にあるのですから、

それはぜひ心にとめておいて、用のない人は机に座っているなど、表に出ていけよ、町を歩いてみろと。1件1件尋ねてみろと。何の話が聞けるのかというのを、どんどんもっと今本当に危機的状況にある中で、そういうことをしていっていただきたいなど。

もう1つ、私、これも質問したのですけれども、おととい、商店街の役員会に顔を出したのです。その時、小松助役がお正月に話をされたこと、『私はパンツ、ワイシャツ、背広、靴、靴下、全部大田区の区内の小売店で買っています』と。その話が非常に盛り上がりまして、ぜひそれをまず理事者が率先して大田区の区内の商店で買い物もする。職員もこのぐらいの気持ちをぜひ持っていただきたい。もちろん通達で出すというのはおかしいですから、とにかく大田区内で何か消費しようよというような雰囲気を、区役所全体で高めでもらえれば随分違うと思うのですけれども（注：現職員数5, 212人）、その辺は区長にぜひお伺いします。

区長 いずれにしても区内の消費動向に影響するわけでございますから、できるだけ身近なところでということは、私自身も心がけておりますし、できれば職員も、これは命令でやるわけではございませんから、一人一人好みがございますから、そこまでは申しませんが、ぜひそのように心がけてもらいたいと思っております。

荒木ひでき ゼひ、区長は率先して、そういう宣伝方をしていただくと、非常に商業者も喜ぶと、小売業が繁盛するということになると思いますので、ゼひこれは小さいことから、身近なことからやっていかないとまずいので、これはとてもいい、多分話だと思います。

◎決算特別委員会（平成16年10月15日）款別質疑

防災の重要課題～危機管理室の設置の必要性～

荒木ひでき 地方自治体、特に区の今後の防災対策で必要なのは、危機管理室ではないかと考えます。この間、区長も前向きな回答をされていました。私は、荒川区に行ってまいりました。防災課に行ったら、危機管理室というのがあって、防災課の部屋の中に消防無線があって、24時間、この消防無線が鳴っているのですと。いわゆるすべての情報、防災に関する情報がそこに行けば必ずリアルタイムで入るような状態でした。防災課と危機管理対策課というのがあって、部長級がちゃんと危機管理対策室長になっているのです。常に防災について考えられる。大田区の今の防災で一体何が一番問題になるのかなと考えてみたら、地域性が大田区というのはいっぱいあるのですね、多摩川に面した地域、また内陸に面した地域。全部一括して、例えば防災の話をして、それでこれから通じるのだろうかと。地域防災といったら、今、動線は東西南北に分かれているのですから、センターが分かれているのですから、それぞれに特色のある対応をしなかったら、これからとてもではないけれども、間に合わないのではないかと。本当にぼちぼちなどと言わないで、次の年度からは、ゼひ対応をいろいろ考えていただいて、防災に関する組織改正をしなかったら、これからはやっていけないだろうと思うのですけれども、いかがでしょうか。

杉坂経営管理部副参事（経営計画担当） 現在、大田区におきまして危機管理の組織についての検討を行っています。現状、いろいろな危機がありますが、それぞれ所管する部局において個別に対応しています。いろいろな危機に関する情報、これを一元管理、あるいは迅速な情報の収集、伝達、簡素な指示命令系統の確立、このような方向で区としての総合的な危機管理体制について、検討しているところです。具体的に申し上げますと、現在、防災課では自然災害を中心に対応していますが、この防災課に一定の体制の整備をして、危機管理所管課とするという方向で検討しています。また、災害本部態勢や水防態勢においても、まちなみ整備課、あるいは特別出張所で一定の役割を果たしています。この危機管理の態勢の中でも、例えば地域における情報の収集応急対応など、一定の役割を担うというように、地域行政センターの役割も考えてまいりたい。

新潟県中越地震の被災者の皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。

ガンバレ新潟！！

平成16年11月18、19日、新潟県北魚沼郡川口町

平成16年10月23日夕方、新潟県中越地方を襲った地震は、マグニチュード6.8、最大震度7という大地震でした。11月19日現在の調べでは、新潟県内の住宅被害・全壊2,499棟、半壊4,801棟、一部損壊43,566棟、建物火災9件、死者40人、負傷者2,858人という未曾有の被害をもたらしました。

私は、新潟県中越地震の報道に接し、小千谷市や長岡市や山古志村のように、いつも注目され報道され続けているところではなく、最大震度7を記録した川口町で一体何が起ったのかをこの目で確かめたくて、また、ゴミの一つも取り除きたくて、11月18日・19日に現地へ行ってまいりました。川口町は人口5,700人の町ですが、両日とも大雨だったためか町を流れる魚野川は濁流であふれ、本来なら日本の原風景とも言うべき美しい山、美しい川、そして何よりも魚沼産コシヒカリの産地として誇るべき土地が見る影も無い姿をさらし、あちこちで土砂崩れが発生して山肌が剥き出しになり、家は壊滅的な打撃を受けていました。

阪神淡路大震災では丸二日経った時点で大きな余震は収まり、復興に向けてある程度の希望を持つことが出来たそうですが、今回の新潟県中越地震の場合は、いつまでも大きな余震が続いたため、『正直復興まで気が回らない』と申された方もおられました。直接現地の人とお話をさせていただいて印象深かったのは、『越後は12月になれば雪ですから』とボツリと漏らされた言葉でした。大田区育ちの私にとって実に衝撃的な言葉でした。特に、テントで避難生活を送っている方や長期ボランティアの方たちが、『20cmも雪が降ればテントがつぶれてしまう』と言っていたことが忘れられません。雪が降り避難が長期化するにつれて、さらに状況が悪化することがあると思います。地域によって行うケアは、小さい単位でこまめに行う必要があります。私はボランティアとしては荷物運びやゴミの片付けと、微々たる働きしか出来ませんでしたが、何が起って何が問題になっているのかは、私の体全身で受け止めてこれた気がします。大田区の事を真摯に考えた場合、学校避難所の問題、災害時要支援者の皆様の問題を始めとして様々な問題があり、まさに大田区に突き付けられた課題は大きいのです。

平成9年ナホトカ号原油流出事故での柏崎市、また先日の三条水害の時もそうでしたが、地元の方々とお話を一番心に残ったことは、『東京の人は新潟の温泉に入って遊んでいい下さい、どうぞスキーに来てください。』ということでした。それが『新潟が元気になるひとつきっかけになるんです』ということです。確かにその通りかもしれません。最後に書き添えておきます。

『皆様が、今出来ることを出来る範囲で』

ガンバレ新潟！ 荒木ひでき

地震現地報告：新潟県北魚沼郡川口町（平成 16 年 11 月 19 日）



雨にけむる日本の原風景
(よく見ると家が傾いています)



町役場の前に貼ってあった寄せ書き
(読んでいて涙が出て来ました)



痛々しい川口町役場と町の『標語』



看板が壊れたままの『越後川口駅』



『マンホール』です。何がどうなったのか！



いたる所に貼ってある『赤紙』



震度 7 の恐怖



震度 7 の恐怖

ガンバレ新潟！平成 16 年 11 月 18・19 日新潟県北魚沼郡川口町現地報告



同時多発した『崖崩れ』



曲がった線路、傾いた家



あまりにもつらいテント生活
テントの上にブルーシートがかかります。

超現場主義



電話一本！！『走る何でも相談室』

いつもバイクで走っています。
お気軽にお声をかけ下さい。



長期間ボランティアの方々の
テントの内部『頭が下がります。』

大田区議会議員 (無所属)

平成 16 年度所属委員会

- ◎健康福祉委員会 ◎防災対策特別委員会
付 属 機 関 委 員
◎消防団運営委員会 ◎文化振興協会評議員
プロフィール

- 出身地：大田区 昭和 25 年 1 月 13 日生まれ
・若草幼稚園
・大田区立山王小学校 卒業
・大田区立大森第三中学校 卒業
・法政大学第二高等学校 卒業
・法政大学法学部法律学科 卒業
・平成 3 年 故新井将敬代議士の秘書となり国
改・区政を猛勉強し、平成 6 年公設秘書、地
元責任者となる。
・平成 7 年 4 月大田区議会議員初当選
・平成 11 年 3 月 同 2 期目当選
・平成 15 年 4 月 同 3 期目当選

座右の銘：受けた恩を石にきざむ